

横浜について調べる (観光編)

神奈川大学横浜キャンパスがある横浜市は、2019年に開港160周年を迎えました。

横浜の歴史を紹介する資料は多数ありますが、横浜は国内でも有数の観光地です。みどころたっぷりの横浜の魅力を感じてみてはどうでしょうか？

神奈川大学に入学して「横浜ははじめて」という方や、家族や友人を横浜に案内する時、きっと役立つと思います。

Web サイトで調べる

まずは、インターネットから情報を集めてみましょう。Google で「横浜 観光」と検索してもいいのですが、かなり大量の数のサイトがヒットしてしまうと思います。主なサイトをピックアップしてみました。

◆ **横浜市観光情報公式サイト**<<https://www.welcome.city.yokohama.jp/>>

観光スポットがジャンル別やエリア別で検索できるほか、おすすめコースの情報も豊富で、初めての方でもわかりやすいです。

◆ **横浜ベイシティマップ**<<http://www.baycitymap.jp/top.html>>

みなとみらい 21 地区を中心に、路線・水上バス・レンタサイクルなどの交通網が掲載された地図を提供しています。

◆ **横浜みなとみらい 21 公式ウェブサイト**<<https://minatomirai21.com/>>

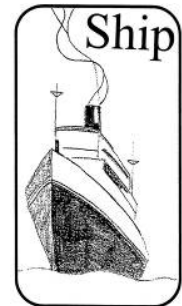
みなとみらい地区周辺のイベントや、みなとみらい 21 の街づくりについての情報がわかります。

◆ **madeinyokohama.jp メイドインヨコハマ**<<https://www.madeinyokohama.jp/>>

横浜にちなんだお土産がたくさんあります。

◆ **Walker+(ウォーカープラス) 横浜市エリア**<<https://www.walkerplus.com/top/ar0314100/yokohama/>>

横浜に密着し、グルメ・イベント・新スポットなど網羅した情報 Web サイト



図書・雑誌で調べる

図書館の資料を探してみましょう。たとえば、横浜図書館にはこんな本があります…

■ **1階ラーニング Hive (視聴覚資料のあるエリアの窓側)**

注:ガイドブックは OPAC では検索できません。直接書架を見てください。

◆ 『地球の歩き方 横浜市 '25-'26』地球の歩き方, 2024.

◆ 『るるぶ情報版 横浜 中華街 みなとみらい』JTB パブリッシング, 2020.

◆ 『まっぷる横浜 中華街・みなとみらい '21』昭文社, 2020.

行きたい場所が知りたいことがひと目でわかる、横浜観光の必携本。

◆ 『超詳細! 横浜さんぽ地図』昭文社, 2019.

『まっぷる横浜』より詳細な地図を掲載。地図には細かな店舗情報や、観光メモも。

ガイドブックはデータベース『Maruzen eBook Library』で電子版も利用できます。

<https://www.kanagawa-u.ac.jp/library/search/database/list/details_10896.html>

■ **地下1階書庫 (請求記号 B092 には、横浜関連のコレクションが多数集められています。)**

◆ 『横濱の通になる本-横濱通(ハマツウ)養成講座』横濱まちづくり倶楽部編. 有隣堂, 2006.

<請求記号:横浜 B092.29-32>

横浜の歴史・観光・食・芸術文化などの分野ですぐに役立つ情報から、知られざるエピソードを収録。

◆ 『わかるヨコハマ:自然・歴史・社会』横浜市教育委員会, かながわ検定協議会編. 神奈川新聞社, 2009.

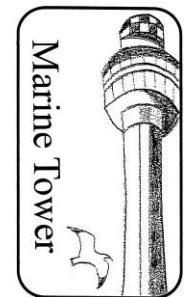
<請求記号:横浜 B092.29-39>

■ **雑誌**

横浜: 2階新聞・雑誌架、みなとみらい: 図書館 2階雑誌

◆ 『横濱:横浜市との協働編集誌』横浜市市民活力推進局広報課. 神奈川新聞社<請求記号:横浜 PB051.4-11、みなとみらい PB051.4-11>

76号(2022)以降休刊<<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/koho/insatsubutsu/kikanshi.html>>



目的別で調べる

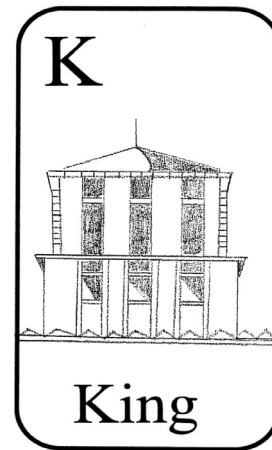
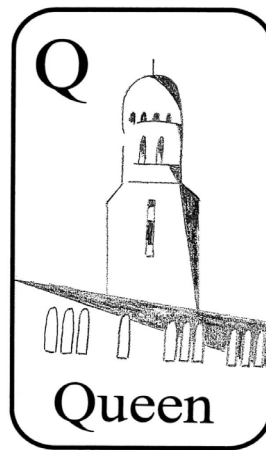
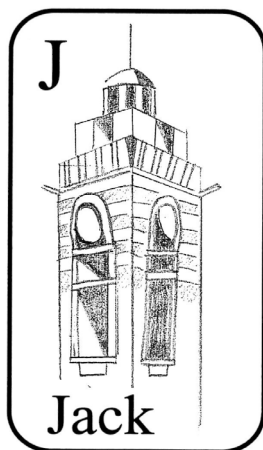
一般的な本や雑誌をご案内しましたが、ここではちょっと視点を変えて、横浜の街を見てみましょう。
「歴史的建築物」と「開港当時の様子」から横浜がわかる本をご案内します。

■歴史的建築物から見た横浜

- ◆『横浜洋館散歩：山手とベイエリアを訪ねて』 淡交社，2005。〈請求記号：横浜B092.52-18〉
みなとみらい線の各駅を3エリアに分け、昭和初期までの歴史的建造物約40件を、写真と簡潔な解説で紹介。
本を手に歩いてまわれるように見やすいエリア別地図と全体地図を収録。
魅力的な建造物が多いので、見ているだけでも楽しいです。

■開港当時の様子から横浜を知る

- ◆『東京横浜今昔：横浜開港150周年』 斎藤多喜男・塚越俊志著。学習研究社，2009 〈請求記号：横浜B092.2-204〉
開港間もない頃から現在までの横浜の歴史を、地図や当時の着色写真と現在の写真を対比して紹介。
横浜での「日本で初めて」も数多く紹介されています。
- ◆『発掘写真で訪ねる横浜市古地図散歩：明治・大正・昭和の街角』 坂上正一著。フォト・パブリッシング，2023
〈請求記号：横浜B092.2-1-280、みなとみらいD213.71-1-86〉
横浜市内18区の古地図、写真を多数収録。
各地域を複数年代の地図で照らし合わせることで、発展の様子をうかがうことができます。



「横浜三塔」をご存知ですか？

神奈川県庁本庁舎(通称：キング)、横浜税関(通称：クイーン)、横浜市開港記念会館(通称：ジャック)の三塔は、横浜港のシンボルとして親しまれています。

三塔の愛称は、入港した外国人船員達が外ランプのカードになぞらえたのが始まり、という説が有力です。

当時はまわりに目立った建物がなく、船員達の目印になっていたそうです。

現在では、この三塔を同時に見ることのできる3カ所のスポットを全てまわると願いがかなう…という都市伝説があります。

由来は、「三塔に航海の安全を祈願した」、「三塔は震災など試練を乗り越えてきたことから、カップルが困難を乗り越え結ばれる」ということだそうです。

その3カ所は、キング(神奈川県庁)の向かいの神奈川県庁分庁舎前、大棧橋のウッドデッキ、赤レンガ倉庫1号館近くです。

ちょっとわかりにくい位置にありますが、3カ所全てにビューポイントの目印があります。

どれも横浜を感じることもできる場所ですので、ぜひまわってみてはどうでしょうか。

参考文献

- ◆原島広至「第7章 横浜三塔」、『横浜今昔散歩』、中経出版，2009，P.115-124
- ◆佐藤朝泰「再発見！こだわりの旅と味 154」、『サンデー毎日』、2009年3月29日号，P.40